

エジプトの落葉果実事情(ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2024年11月5日

これは米国農務省海外農業局カイロ事務所(エジプト)が作成した「落葉果実年次報告書」を翻訳したものであり(一部省略)、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

エジプトの2024/25販売年度(年度)(2024年10月～2025年9月)の生食用ブドウ生産量は、159万トンに増加すると予測される。エジプトの生食用ブドウの輸出量は、生産量と品質が向上した新品種により、5.7%(18万5千トン)増加すると予測される。さらに、2024年8月12日のエジプト中央植物検疫局(CAPQ)の公式声明(後述)は、生産と貿易の両方への多大な貢献となった。

生産

エジプトの2024/25年度の生食用ブドウ生産量は、前年度より2万トン多い159万トンと予測される。これは主に収穫面積が増加(1千ヘクタール増)するとともに、新しい生食用ブドウ品種が導入され、栽培方法の改善(点滴灌漑及び保護栽培)により果実の品質が向上したことによるものである。そのため、全可溶性固形物(TSS)含量¹の改善にもつながっている。

ブドウは、柑橘類に次いで国内で最も広く栽培されている果実であり、北から南まで全国に広がっている。エジプトの早生ブドウ品種の収穫期は5月下旬に始まり9月に終わる。一方、晩生品種の収穫は6月下旬に始まり11月に終わる。

ナイルデルタ地帯のエジプト農業は、「オールドランド」と呼ばれる地域での小規模農業が主流で、伝統的な栽培方法や(管理された)洪水による地表灌漑が特徴となっている。「ニューランド」は、比較的最近になって造成された農地である。ニューランドは、250万エーカー(100万ヘクタール)以上をカバーし、最新の灌漑技術を使用して主に輸出市場に専念している。

エジプトの生食用ブドウ産地

1. ナイルデルタ流域農業(オールドランド農業)

ナイルデルタでは、大部分が小規模農場(栽培規模は通常1.5ヘクタール未満)である。その生産物のほとんどは国内市場向けであり、国内の品種(ファユミー、ロウミアアマル等)に集中する傾向がある。なお、これらの小規模生産者は、投入コストの増加、農地の断片化、都市化という課題に直面している。

2. 砂漠造成地農業(ニューランド農業)

砂漠地帯に造成された農場は、輸出に焦点を当て完全に統合されたアグリビジネスであることが多い。これらの近代的な農場は、傾向として、最大4千ヘクタールまたはそれ以上の大規模であり、主にテクノロジー主導の生産方法、高度なコールドチェーン冷蔵施設、及び大規模な自動梱包施設を使用する。ヌバリア地域(地図1)は、砂漠地帯に造成された農地での生産の大部分を占めており、エジプトのブドウ総生産量の約65%を占めている。輸出は価値が高いため、エジプトの企業はブドウ生産を拡大し続けている。さらに、耐乾性品種と点滴灌漑システムが使用されるため、水の入手可能性はブドウ産地では問題にならない。

地図1 ベヒラ県ヌバリア地域



出典: 米国農務省海外農業局国際生産評価課

1. 可溶性固形物(TSS)の大部分が糖類であるため、TSSとブ릭スの用語はほぼ同じ意味で使用される。

表1 エジプトで栽培される主な生食用ブドウ品種

品 種 名	性 質	収穫時期
フレームシードレス	赤ブドウ、早生品種	5月中旬～6月上旬
クリムゾン	赤ブドウ、早生品種	8月中旬
レッドグローブ	赤ブドウ、晩生品種	7月中旬
アーリースイート	白ブドウ、早生品種	5月中旬
トンプソンシードレス	白ブドウ、中生品種	7月中旬
スペリア	白ブドウ、早生品種	5月中旬～6月上旬
オータムローヤル	黒ブドウ、晩生品種	7月中旬～8月上旬
プライムシードレス	緑ブドウ、早生品種	5月中旬～6月
ティムコ	種無し赤ブドウ、晩生品種	8月下旬

出典: FAO エジプトのブドウバリューチェーンにおける食品ロス分析-2021

大規模な生産者達は、土壌や環境条件への適合性が評価された新しい品種を常に探し求めている。生産者達は、収量の増加と品質の向上、及び貯蔵寿命の延長(特に中生及び晩生品種)に注力している。また、大規模な輸出農場は、輸出競争力を維持するために、海外市場、特にEU及び英国の輸入要件を満たすことに熱心に取り組んでいる。

エジプトの生食用ブドウの植え付けと収穫の時期

エジプトの気候は生食用ブドウの生産に最適である。温暖な冬、暑い夏、そして年間を通じて霜が降りない暖かい生育日数が多いため、生育期間中のブドウの木には最適な条件が与えられる。2024年の生食用ブドウの生育シーズンの天候は、サイズ、重量及び色の点で白と赤の両方の品種が非常に高品質になることに貢献した。しかし、過度の暑さと干ばつは依然として生食用ブドウ生産者にとっての懸念事項である。

植え付けの時期は2月の第1週に始まる。挿し木はピートモスと砂の混合物で満たされた黒いポリエチレン袋に植えられ、野外に移植されるまで温室に保管される。ブドウの木は3年目から結実する。

植物の新品種の保護に関する国際条約への加入

エジプトは、2019年12月に植物新品種の開発を奨励する「植物の新品種の保護に関する国際条約」(UPOV条約)の76番目の加盟国となった。エジプトは、UPOVに加盟したことで、新しい優れた植物品種を普及及び開発することができるようになった。さらに、これによりエジプトは他のUPOV加盟国が持つ新しい植物品種へのアクセスが改善され、さまざまな作物の輸出を促進することができるようになった。また、登録されたエジプトの品種を搾取や盗難から保護するのにも役立つ。UPOVへの参加は、新品種の果実や野菜へのアクセスを改善するのに役立ち、業界が海外市場での競争力を高めることを促進し、エジプトが国内で進める育種プログラムを増やすように促した。

消費

2024/25年度の生鮮ブドウの国内消費量は、前年よりわずかに多い141万トンと予測される。消費の増加は、主に人口増加と近隣諸国、特にスーダンからの移民の増加によるものである。エジプトのブドウの国内消費は、主に国内生産と、マンゴー(これも主要な夏の作物である)等の他の果実と比較して競争力のある価格によって支えられている。さらに、エジプト産のブドウはより甘く、エジプトの人々にとってより魅力的であるため、国内の消費者の間でより人気がある。また、消費者は、輸入されたブドウよりも競争力のある価格で、様々な国内産の品種を簡単に購入することができる。

国内のブドウ市場は、産品を輸出しない生産者や、輸出契約を履行した後に製品の一部を地元市場に出荷する輸出業者にとって重要な市場である。エジプト、特に農村部においては、今でも青空市場が生食用ブドウの主要な販売経路である。青空市場でのブドウの販売は、ほとんどが密閉容器を使わずに青果で販売されるため、季節の影響を受ける。

地元の市場や自家消費のために生食用ブドウを栽培する生産者は、多少の擦り傷や打撲痕を許容するが、ハイエンド市場に対しては品質基準を満たすためより多くの注意が払われている。

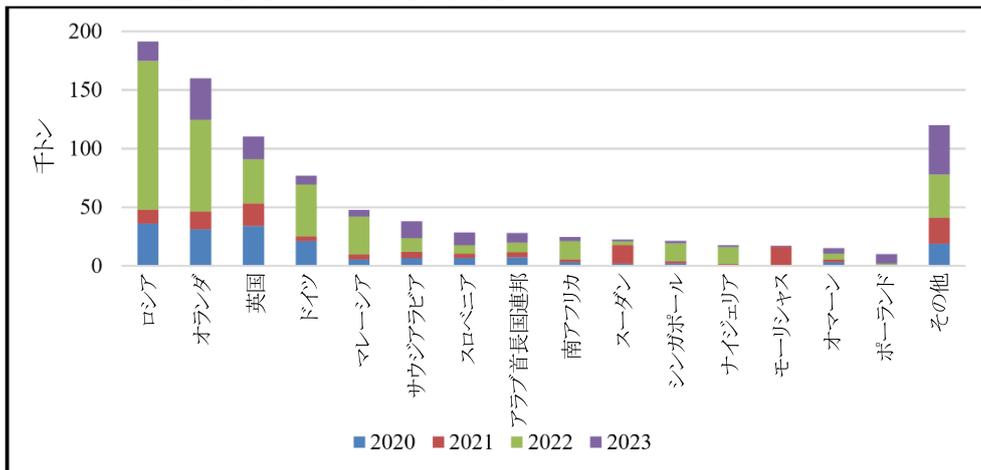
貿易

2024/25年度の生鮮ブドウの輸出量は、前年比5.7%増の18万5千トンと予測される。輸出量の増加は、輸出志向の農場に適した品種の品質が向上したことに牽引されている。輸出の増加はまた、主要な輸出先における消費者の嗜好に対する理解が深まり、それらの市場でより高い基準を確立することによっても推進されている。生産コストの上昇、インフレ、トラック輸送コストの高騰(他の農産物を輸出するためのトラック使用との競合)にもかかわらず、生食用ブドウの輸出業者らは、2023/24年度の主要市場での地位を確保するために、品質の向上に注力した。

貨物輸送の課題に対処するため、エジプト政府(GOE)は民間のパートナーとともに、EU市場へのアクセス拡大を促進するためのコールドチェーン物流の開発に投資している。そのためGOEは、ダミエッタ港(エジプト)とトリエステ港(イタリア)の間で週420台のトラックを輸送できるロールオン/ロールオフ(Ro-Ro)システムによる青果物やその他の商品の輸送に関する協定をイタリアと締結した²。その結果、トリエステとダミエッタの間の商品の輸送時間は60時間に短縮され、隔週で運航されている³。

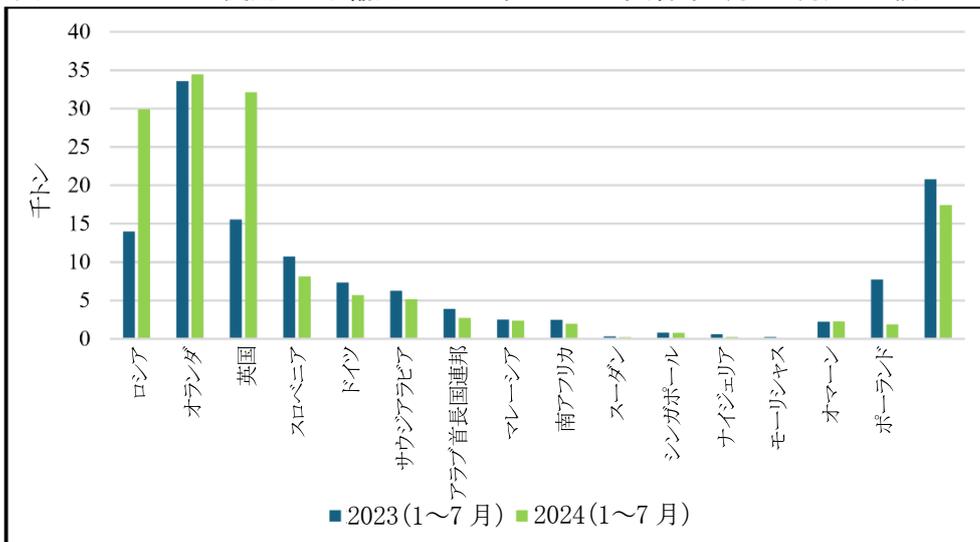
エジプトの生食用ブドウ輸出は、主要市場(ロシア、英国、EU等)の需要の増加と、エジプト産ブドウの糖度、サイズ、色、味の改善により、過去4年間で増加した。2020年から2023年にかけての輸出先上位5カ国は、ロシア、オランダ、英国、ドイツ、マレーシアであった(図1)。

図1 エジプト産生食用ブドウの主な輸出先



出典: Trade Data Monitor, LLC

図2 エジプトの生食用ブドウ輸出 2023年と2024年(各年1月~6月)の比較

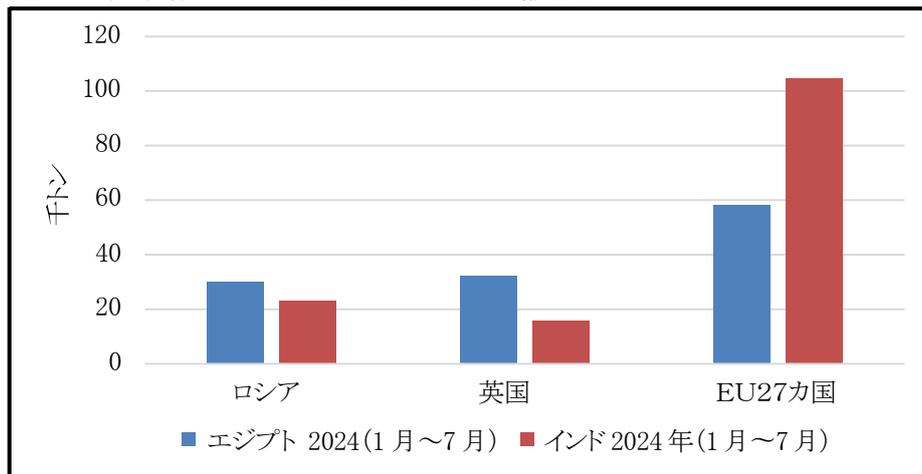


出典: Trade Data Monitor, LLC

2024年(1月～6月)のエジプトの輸出量は、2023年の同時期と比較して12.7%増加した。この増加は、エジプト産ブドウの主要市場であるロシアと英国への輸出が大幅に増加したことに起因しており、インド及びスペインとの競争が少なかった(図2)。

昨年のフーシ派の船舶攻撃による紅海危機のため、喜望峰廻りの長い輸送時間(目的地によっては30日から40日にも及ぶ)に加え、コンテナや貨物の輸送コストが増加し、輸出業者は極東へのブドウの輸送を躊躇した。一方、紅海危機は、インドから英国及びロシアへの生食用ブドウの輸出に影響を与えた(図3)。インドは、EU、ロシア、英国の市場において、エジプトの主要な競争相手である。ただし、この競争は主に品種と着荷の時期に依存する。

図3 主要市場へのエジプトとインドのブドウ輸出量



出典: Trade Data Monitor LLC

政策

エジプト中央植物検疫局(CAPQ)は2024年8月12日に、エジプトのUPOV加盟(2019年)及び通達(2022年)第29号(ブドウ輸出農場の登録及びコードの取得並びにブドウ品種の植物衛生及び知的財産(IP)権に関する証明書発行に関する指示)に関連する公式声明を発表した。公式声明(付録1)は、ブドウ品種の知的財産権を保護するためのさらなる手続きを定めている。その結果、知的財産権の侵害が疑われる場合は、サプライチェーンのどの段階でもサンプルが収集され、DNAフィンガープリントがCAPQのラボに持ち込まれて、IP保護規制への準拠が確保される。(以下、付録(アラビア語)の内容説明省略)

エジプトの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生鮮、生食用)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年10月号		2023年10月		2024年10月号	
販売年度の始まり	ブドウ		ブドウ		ブドウ	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	75,600	75,600	76,000	76,000	0	76,000
収穫面積(ヘクタール)	71,400	71,400	71,800	72,000	0	73,000
商業的生産量(トン)	1,560,000	1,560,000	1,568,000	1,573,000	0	1,593,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	1,560,000	1,560,000	1,568,000	1,573,000	0	1,593,000
輸入量(トン)	2,000	2,000	2,000	2,000	0	2,000
総供給量(トン)	1,562,000	1,562,000	1,570,000	1,575,000	0	1,595,000
生鮮国内消費量(トン)	1,392,000	1,392,000	1,400,000	1,400,000	0	1,410,000
輸出量(トン)	170,000	170,000	170,000	175,000	0	185,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	1,562,000	1,562,000	1,570,000	1,575,000	0	1,595,000

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。